

# 令和4年度 学校自己評価システムシート(埼玉県立羽生高等学校)

目指す学校像	主体的に学ぶ力と豊かな人間性を育成し、地域に開かれた学校づくりを推進する。
--------	---------------------------------------

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒個々の能力や適性を把握し、少人数の良さを生かした指導方法を工夫・共有して、基礎学力の定着に努める。</li> <li>生徒の進路意識を高めさせ、進路実現を促す指導を推進する。</li> <li>生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、社会性を培い、規律ある明るい校風づくりを推進する。</li> <li>学校自己評価システムの効果的な活用を図り、広報活動の一層の充実に努め、地域の生涯学習機関として貢献する。</li> </ol>
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標			年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			
番号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	「学び直しと自立の支援」に向け、教員は丁寧で寄り添う指導を日々実践している。多様な背景を持ち、入学前に一時的なつまづき等の経験をもつ生徒たちの多くが、教員の指導の下、学校生活に誠実に取り組み、学力を高めようと努力している。新教育課程等今年度から始まる取組を生徒の基礎学力の定着や学習意欲の向上につなげるよう軌道に乗せるとともに、多様な生徒への対応が一層求められる。	・共通理解に基づいた新たな取組の実践と多様な学びを支える体制づくり	①教育課程委員会と各教科が連携し、新教育課程や観点別評価の実施状況を共有するとともに、課題の洗い出し等を行う。その上で、より効果的な指導方法や課題の解決策を検討する。 ②新設した情報管理部を中心に、生徒の多様な学びを支えるため、ICT環境の整備を進める。 ③県教育委員会の諸事業を活用し、多様な生徒を支える体制づくりを進める。	①新教育課程や観点別評価に係る課題を解決し、新教育課程等に対する理解を学校全体で深めることができたか。 ②ICTを活用した授業実践やHR指導等の事例が前年度より増加したか。また、生徒一人端末一台等今後のICT活用を見据えた取組や環境整備を具体的に進めることができたか。 ③昨年度と比較し、より多くの授業や場面で事業を活用し、生徒の学びを支えることができたか。		
2	進路実現に向け、主体的に行動することが苦手な生徒が多い状況を改善すべく、年次や進路指導部が様々な取組を進めている。引き続き生徒の状況を踏まえつつ、外部機関等と連携しながら、その取組がより良いものとなるよう、更なる充実や改善を進める必要がある。	・生徒一人ひとりの進路意識の向上と進路希望の実現	①生徒にとってより効果的な進路指導となるよう、年間指導計画の見直しを進める。 ②進路指導部と年次が連携してキャリア・パスポートの更なる活用を進める。 ③「総合的な探究の時間」の内容や実施方法の充実を図り、自ら考え、行動する力の育成につなげる。 ④就職支援アドバイザーを活用し、進路行事の充実を図るとともに、就職希望の生徒により具体的で、適切な支援を行う。	①生徒の状況や外部機関との連携の見直しを考慮した年間指導計画を策定し、それに基づき進路指導を行うことができたか。 ②キャリア・パスポートの活用事例を蓄積し、より効果的な活用に向け、学校全体で理解を深めることができたか。 ③複数年次を対象に「総合的な探究の時間」を実施し、それぞれの年次にふさわしい教育プログラムを策定・実施することができたか。 ④就職希望者の内定率が100%となったか。		
3	不登校をはじめとする様々な課題を抱えた生徒をしっかり支えるべく、年次と教育相談部、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等が連携し、様々な支援を行っている。相談体制を支えるスタッフの変更に左右されることなく、継続性をもった支援を組織的に行う必要がある。	・教育相談体制の継続と支援活動の充実	①今年度新たに着任するスクールソーシャルワーカーとの連携を密にし、新たな相談体制を早期に確立することで、安定した支援を継続する。 ②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学習サポーターと連携し、組織的・継続的に生徒・保護者の支援を行う。 ③特別支援教育コーディネーターによる訪問支援や学校全体での情報交換会を通じて、特別支援教育の視点から生徒の行動や指導を捉え直すなど、より深い生徒理解に学校全体で取り組む。	①昨年度から継続性のある支援体制を確立し、支援を必要とする生徒・保護者に対して、適時適切な支援を行うことができたか。 ②相談室だよりを月初めに発行し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学習サポーターの相談日程等の有益な情報提供を保護者に行うことができたか。 ③特別な支援が必要な生徒に対して、十分な相談体制を構築し、支援ができたか。		
	新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況が続いている。安心安全な学校生活の実現に向け、感染状況に適切かつ柔軟に対応することが求められる。また、生徒指導上、SNSによるトラブルの増加が懸念されることから有効な対策が求められている。	・感染状況に柔軟な対応と啓発的な生徒指導の推進	①マスクの着用や日々の検温の徹底等、従来への適切かつ柔軟な対応と啓発的な生徒指導の推進 ②本校生徒の実態に即した、効果的・具体的なSNSに関する指導を、日々の生徒指導と授業の両面から実施する。	①校内での感染を防ぎ、安心安全な学校生活を実現することができたか。 ②SNS等を原因とする生徒間のトラブルが減少したか。 ②授業「コミュニケーション」を通じて、生徒が情報リテラシーを向上させることができたか。		
4	教務部を中心に、日々の教育活動をホームページを通じて積極的に発信している。新型コロナウイルスの収束が見通せない中、今年度から始まる新教育課程等の新しい取組について、保護者等の理解を得るため、ホームページを中心に積極的に発信していく必要がある。また、地域の生涯学習機関としての役割を果たすため、感染状況を見極めながら、可能な限り公開講座を開講する。	・ホームページの発信内容の充実と新たな発信手段の検討 ・安心安全に配慮した公開講座の実施	①日々の学校生活の様子を適宜ホームページで発信するとともに、今年度の新たな取組についても積極的に発信する。 ②アフターコロナを想定して、インフォメーションディスプレイを活用し、保護者をはじめとする来校者への情報発信の在り方を検討するとともに、試行的運用を行う。 ③感染状況を踏まえつつ、公開講座等を可能な限り開講する。	①今年度の新たな取組や日々の教育活動を積極的に発信することができたか。また、ホームページの更新数とアクセス数が増加したか。 ②インフォメーションディスプレイで発信すべき内容を整理し、次年度の本格的運用に向け、準備を整えることができたか。 ③年間を通じて、複数の公開講座を開講し、地域の生涯学習機関としての役割を果たすことができたか。		

実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	